

12

特集 統合医療における美容医療 ～サブリ・漢方・化粧品・プラセンタ・美容鍼・ドラッグデリバリー～

美容鍼総論

～市場・種類・作用機序・安全性・美容医療との併用～

岡本真理¹⁾，折橋梢恵²⁾，光永裕之³⁾，川畑充弘⁴⁾

- 1) 日本メディカル美容鍼協会 代表
- 2) 美容鍼灸の会 美真会 会長
- 3) 美容鍼灸の会 美真会 副会長
- 4) 全日本美容鍼灸連盟 代表理事

美容鍼は直近10年ほどで急激な発展を遂げた健康と美容を目的とした鍼灸技術である。主には顔に鍼を刺す技術を指すが、鍼を刺さない技術も存在する。また全身の鍼灸施術を含めるものから顔面部に限定した施術まで存在し、そのメソッドや提供方法は多岐にわたる。美容鍼の主な作用機序は、皮膚の創傷治癒作用、筋肉への作用、全身鍼灸治療による作用であるが、その3つの作用に基づき、顔のたるみ、シワ、目の下のくまなどさまざまな症状に適用を持つ。美容鍼は安全性に優れた美容法であるが、筋肉まで鍼を刺すという性質上、内出血の発現リスクとそのマネジメントにはとくに注意を要する。これら有効性・安全性の特徴を踏まえ、美容医療と上手に併用して多様化するクライアントニーズに対応していきたい。

はじめに

現在、美容鍼は鍼灸業界の一分野として確立されつつある。多くの鍼灸学校では、なんらかの形で美容鍼の講義が取り入れられ、美容鍼灸師を目指して専門学校に入学する者も少なくない。また今まで鍼灸に興味を持たなかった一般消費者の利用が増えてきたことから、鍼灸院だけではなくエステティックサロンやスパ施設、医療クリニックなどでも美容鍼を取り入れる傾向が強くなっている。そこでより深く美容鍼を理解していただくために、本章では、日本の美容鍼がどのように発展し、今行われている美容鍼がどのようなものなのか、美容鍼の効果や安全性、美容医療と併用について述べていきたい。

日本における美容鍼の成り立ち

鍼灸は、中国で古くから行われてきた医療の1つであり、その歴史は数千年ともいわれている。中国では1980年代から美容医学が重視されるようになり、中医美容の関心が高まり、研究や臨床に取り組まれるようになった。そのなかの1つである美容鍼が世界的に注目されるようになったのは今から15年ほど前の米国で、ハリウッド女優達が「cosmetic acupuncture」としてウェブメディアなどで世界に向けて情報を発信したことがきっかけといわれている。その情報は日本にまで届き、美容鍼を取り入れる鍼灸院が少しずつ増加し、2006年に医道の日本社が『臨時増刊 美容と鍼灸』を発刊した頃を皮切りに、現在に至る

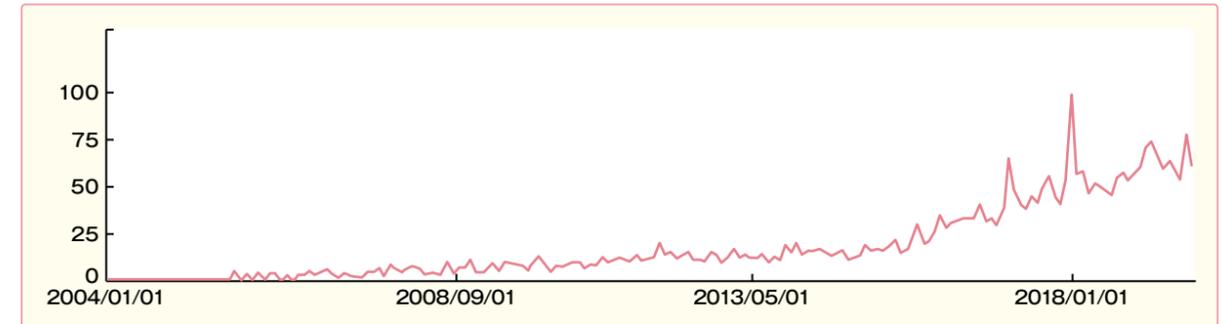


図1 キーワード「美容鍼」のインターネット検索トレンド(googleトレンドより引用)

まで急激な発展を遂げている。今では、都内を中心に美容鍼灸を専門とした鍼灸院が増加し、また鍼灸養成施設ではなんらかの形で美容鍼灸を教育として取り入れており、美容を専門とした鍼灸師を目指す者も少なくない。美容鍼はマスメディアでも取り上げられることが多くなり、今まで鍼灸に興味を持たなかった人々からも支持を集め、鍼灸の新たな成長分野として期待されている。

美容鍼市場の発展

この10年ほどで急激に発展した美容鍼市場であるが、残念ながらその市場規模や一般消費者の利用率についてはまだほとんど調査されていないのが実情である。そこで、主にインターネット上のデータから得られる知見を以下に紹介する。

需要増に伴う美容鍼提供院の急増

インターネット検索数の傾向を調べることができるGoogleトレンドによると、美容鍼が一般消費者に認知されインターネットで検索され始めたのは、2007年ごろのことである。その後の検索数は数年間微増が続いていたが、2015年ごろを境にメディアやSNSでの露出が増え、2019年現在まで右肩上がりに伸び続けている(図1)。

2000年代に美容鍼専門院としてホームページを開設していた院は数えられる程度であったが、需要の伸びとともに現在では無数の美容鍼灸院が存在する時代となった。全国の鍼灸院を検索できるポータルサイト「しんきゅうコンパス」で美容鍼を標榜する鍼灸院を検索すると、2019年10月時点で1693件がヒットするが、未登録の鍼灸院も多数あるため美容鍼を提供する鍼灸院の実数がさらに多いことは確実である。近年では、美容鍼を導入する美容クリニック・美容皮膚科が増えてきていることも1つのトピックとして挙げられよう。

美容鍼の市場規模

残念ながら美容鍼の市場規模を測った市場調査研究は執筆時点で存在しないが、筆者らの推定ではいまだ数十億円規模である。矢野経済研究所の調査によると、国内のエステ市場規模が3587億円(2018年調査)、美容医療市場が3252億円(2017年調査)であることを考えると、美容鍼の将来的な市場成長性は大きいといえる。この市場の将来性こそが、美容鍼に取り組む鍼灸院を増やしている大きな要因である。鍼灸の市場規模は、按摩業を含めても3,250億円(2014年調査)であり、鍼灸の受療率はわずか4.9%(2014年調査)に留まっている。美容鍼市場が広がることで、鍼灸全体の受療率が高まることが期待されている。